

さいたま市長 6月定例記者会見

平成29年6月21日（水曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 それでは、定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

 それでは、記者クラブ幹事社の毎日新聞さん、進行よろしく願いいたします。

○ 毎日新聞 6月の幹事社を務めます毎日新聞です。よろしくお願いいたします。

 それでは、本日の記者会見の内容につきまして、市長からご説明をお願いいたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。

 7日に梅雨入りしたと見られると発表以降、関東地方では晴れる日が多く、全国的に見ても降水量は平年の半分以下ですが、ようやく今週あたりから梅雨らしい天気となるようです。

 また、このところ朝晩は秋のように涼しい日が続いております。気温の変化で体調を崩さないように皆さんお気をつけいただきたいと思います。

 それでは、本日の議題に移らせていただきます。

市長発表：議題1『新しい介護予防教室が始まります～いきいき百歳体操を取り入れた「ますます元気教室」がスタート～』

 それでは、議題1でございます。

 「新しい介護予防教室が始まります」についてご説明をさせていただきます。

 昨年度まで市では、元気な高齢者を対象にいたしました、いわゆる一次予防事業の教室と、やや虚弱となった方を対象にした、いわゆる二次予防事業教室を実施しておりました。

 介護保険法の改正を受けまして、本市では平成29年度から従来の生活習慣病の予防や転倒予防に向けた筋力トレーニングなどに加えまして、社会活動への参加や生きがいづくりといった要素にもバランスよく働きかけることを目的に、一次予防と二次予防事業を再編しまして、一般介護予防

事業の取り組みがスタートいたしました。

この事業といたしまして、全ての65歳以上の方が状態の区別なく楽しみながら参加いただけるよう、新しい教室や講座を企画いたしました。

本日は、新しい介護予防教室のうち、「いきいき百歳体操」を取り入れた「ますます元気教室」と口腔ケアなどについて学びます「健口教室」について説明をさせていただきます。

まず、本市の性別、年齢階級別人口分布についてご覧をいただきたいと思えます。

全国では、65歳～69歳のいわゆる団塊の世代と現在団塊ジュニアと呼ばれる現在40歳～44歳の世代は大差がないのに対しまして、これ（グラフの折れ線）が全国の平均であり、さいたま市の場合は、この団塊の世代も多いのですけれども、それ以上に団塊のジュニアの世代が大きく上回っているという状況がございます。

全国では、2025年に団塊の世代が75歳以上となるピークを迎えますけれども、本市ではさらに20年から25年先にそのピークを迎えることとなります。

そのため本市では、団塊世代が75歳を迎える2025年だけでなく、その先の2050年前後にさらに大きなピークが訪れると想定をいたしております。

したがって、本市では国の制度の先を見据えた長期にわたる継続的、また計画的な対応が必要であると考えております。

本市で介護保険の認定を受ける方の割合は、ご覧のように75歳を過ぎますと急激に増えてまいります。

次に、介護を必要とする期間、これは一般的にどのくらいかということでもありますけれども、こちらのグラフは男女別にあらわしておりますけれども、この平均寿命と、それから健康寿命、これを比較したものでして、この差がいわゆる介護をされている期間になります。

これを見ますと、男性では9.13年、女性では12.68年で、10年から、あるいは10年以上の支援が必要になるものと理解をいたしております。

そして、こうした介護が必要となった主な原因でございますけれども、

こちら(円グラフ)をご覧くださいと思いますが、「脳血管疾患」あるいは「認知症」というものが上位を占めており、「高齢による衰弱」がその3番目に来てございます。これがいわゆる「フレイル」という状況でございます。

フレイルとは、いわゆる筋力や心身の活力が低下した状態のことでございます。

一般的に年齢を重ねますと、体力が衰え、また運動不足の傾向が強まります。少し動くと疲れるため、身の回りのことをすることが億劫になりまして、身体活動そのものが減少してまいります。そのことが体力や栄養の低下を招くことにつながってまいります。

この状態を放置すると、やがて要介護状態になることが懸念されます。

介護が必要となった原因の1位、2位であります脳血管疾患、認知症は医療が必要な疾患でございます。本人の心がけだけでは防ぐことが難しい場合もございます。

一方、この3位の高齢による衰弱は、自分自身の日常の生活を見直すことで介護が必要な状態をある程度防ぐことができるものと考えます。

そのために介護予防3原則であります運動、それから口腔ケアを含めた栄養、そして社会参加というこの3つの原則が大変重要であると私たちは考えております。

そこで、こうした教室を展開してまいります。

まず、具体的にどんな教室かということでもありますけれども、まずこの「ますます元気教室」でございますが、これは市内の59の公民館が開催をする場所となっております。おもりに使いました「いきいき百歳体操」のほか、様々な座学も取り入れまして、複合型のプログラムを実施してまいります。1コース6日間、市内で年間170コースの教室を開催する予定でございます。

具体的には、毎回、いきいき百歳体操や仲間づくりの時間を確保した上で、日ごとに認知症の症状など、様々な内容を座学で学んだり、脳トレーニングの「コグニサイズ」や体力測定を実施しまして、個人の体力についての説明を行ってまいります。

また、市の事業についての説明や地域の情報を案内し、市の取り組みな

どに理解を深めていただきたいと考えております。

いきいき百歳体操は、平成14年に高知市の理学療法士が考案したもので、おもりを使った体操です。これがその実物(重錘バンド)でございますけれども、日常生活で必要とされている動作、これらを必要な筋力アップの効果のある6種類の体操を実施いたします。

この中(重錘バンド)におもりが入っております、1本当たり200グラムで、それぞれ体力の状況に応じまして、この本数を変えて、それぞれの体力に合わせて使っていただくことになります。おもりは6本入ることになっておりますけれども、この重さを変えながら使用していただきます。

また、みんなで集まって体操を行っていただくことで、参加者同士の交流が生まれまして、地域づくりにも資する取り組みと期待をしているところでございます。

現在全国の自治体でこのいきいき百歳体操の普及啓発が行われております。県内でも取り組みを進めている市町村が多くあると伺っております。県内では、33市町村が既に実施をしています。

本市では、今年度、新規の事業開始に伴いまして、啓発等に係るDVDを制作いたしました。いずれも関係団体の協力をいただきまして、手づくりで制作をいたしましたので、コストはほとんどかかっておりません。配布用のDVDの購入費用だけという状況でございます。

具体的には、いきいき百歳体操の啓発のために「いきいき百歳体操のやり方」に関するDVDと、さいたま市の状況や「介護予防がなぜ必要か」に関するDVD、それから「口腔機能向上体操」のDVDを制作いたしました。

県の理学療法士協会、また県の歯科衛生士会、市内の地域包括支援センター職員の協力を得まして、市の担当職員が制作をしたもので、職員自身も出演をいたしております。

今後、教室開催時などに視聴していただきまして、介護予防の大切さや効果の上がる運動のやり方をご覧いただきたいと思います。

次に、「健口教室」、健康の「健」に「口」と書いたほうの健口教室でございます。

この口の健康は、肺炎予防あるいは認知症予防など全身の健康にもつな

がるとされております。

ますます元気教室では、口腔ケアやシニア世代の食事について学んだ後、歯科衛生士や栄養士といった専門家からの話がもっと聞きたいという方を念頭に置いておまして、多くの方に参加いただきたいと考えております。

高齢期の栄養、また口腔機能について知ることで自身の日常の生活を見直し、フレイル予防を行い、グループワークを通じまして、参加者同士が楽しく、また交流が図れるような内容を企画いたしております。

1コース3日間、各区で3コース開催をしております。市全体では、30コースを実施する予定となっております。会場は、各区役所や高齢者施設、公民館、コミュニティセンター等、コースごとに異なりますが、これについては区役所でそれぞれ確認をいただきたいと思っております。

現在1コース目の開催は、10区中3区が既に開催をしている状況でございます。その他の区も7月までに順次開催をしていく予定となっております。

これからの介護予防では、参加意欲、自発性、継続性がポイントでございます。

そのために高齢者の身近な場所で、通える範囲に週1回以上継続してトレーニングができる「住民主体の通いの場」が必要と認識しております。

通いの場が継続していくポイントとして、運動、体操は有効な手法と認識をしておりますので、いきいき健康体操は「通いの場の継続」の大きな推進力になるものと期待をしております。

住みなれた地域で開催をすることで高齢者が互いに知り合い、支え合うことになることを期待しております。また、情報交換の場となって高齢者同士のつながりが強くなる介護予防だけでなく、まちづくりの様々な活動に広がっていけばよいと考えております。

このきっかけづくりとして、ますます元気教室を開催し、参加者を地域活動の担い手につなげていきたいと考えております。

以上が議題1でございます。

市長発表：議題2『全国初の人工知能(AI)により「最新の子育てイベント情報」を毎日届けるスマホアプリ「美園子育てスタイル Bambi (バンビ)」をリリースします』

続きまして、議題2でございますけれども、『全国初の人工知能(AI)による「最新の子育てイベント情報」を毎日届けるスマホアプリ「美園子育てスタイル B a m b i (バンビ)」をリリースします』についてご説明をさせていただきます。

本市の副都心でございます浦和美園地区におきまして、「安心・安全」、「快適・便利」、「楽しく・豊かな」まちづくりを推進するため、私も副会長に就任しておりますけれども、美園タウンマネジメント協会ではICTなどを活用した先進的なサービスを実施いたしております。

平成27年度に協会を立ち上げまして、「公民+学」が一緒になり、検討してきた幅広い分野のサービスが平成28年度より徐々に形、また成果となってあらわれ始めたところでございます。

今後美園地区の定住人口を増やしていくためには、特に「子育て」という分野が重要だと考えております。そこで、積極的に若い子育て世代層を呼び込むために美園地区では環境だけではなく、子育て世帯に優しく、また暮らしやすいサービスを提供することでまちの魅力を高めていきたいと考えております。

具体的には、美園地区にお住まいの方々を調べますと、共働き世帯の数が多く、働いているお母さん、お父さんのゆとりの時間を少しでも増やすことができるようにICTを活用したサービスを検討し、準備が整ったものから実施をしていくこととしております。

今回は、その中核となる子育て世帯向けのスマートフォンアプリ「B a m b i (バンビ)」をソフトバンク株式会社との連携によりまして制作をすることができたもので、それについて発表させていただきます。

この「美園子育てスタイル B a m b i (バンビ)」でございますが、このアプリの一番の特徴は、全国で初めてとなります人工知能である独自のクローリングエンジンを活用して、地元の民間商業施設とも連携をしまして、情報配信サービスを提供するものでございます。

このクローリングエンジンはどういうものかという、自動的にウェブページを収集するソフトウェアのことでありまして、これにより毎日夕方に最新の情報を手に入れることが可能となります。

また、主な利用者として想定しておりますお母さんたちが、簡単に利用できるようにシンプルなデザインとしまして、機能をあえて4つに絞っていることも特徴の一つでございます。機能については、後ほど順番に説明をさせていただきます。

美園地区にお住まいの方や、美園に引っ越しをお考えの方を対象としているものの、市内にお住まいの方であれば十分役に立つアプリとなっておりますので、市内在住の皆様の方々にダウンロードしていただいて、ご利用、ご活用いただきたいと考えております。

費用は無料でございます。「アップストア」や「グーグルプレイ」などからどなたでもダウンロードが可能となっております。

それでは、このアプリの機能についてご説明をさせていただきます。

1つ目が「イベント情報」という機能でございます。これは、先ほどご紹介をいたしましたクローリングエンジンを活用しまして、最新の情報が自動的に届けられる仕組みとなっております。

このイベント情報につきましては、美園コミュニティセンターなど公共施設で実施をいたしますイベントだけではなくて、美園地区の主婦にヒアリングを実施いたしまして、日ごろどのような民間の商業施設を利用しているかリサーチを行いまして、その結果を踏まえて施設を選定させていただきました。

民間商業施設との協力関係によりまして、魅力的で最新のイベント情報を簡単に手に入れることができるようになっておりまして、非常に満足度の高い機能となっております。

本アプリでは、美園地区近隣施設だけではなく、新都心地区や市外の動物園などの情報も手に入れられるため、市内全域の方々にも十分にご利用いただける、満足いただける内容になっているのではないかと考えております。

2番目の内容は、「美園の暮らし」でございます。

ここでは、例えば「見沼田んぼ」など美園地区在住の子育て世代から伺

った暮らしのスポットなどを紹介しております。今後アプリ利用者の声を踏まえまして、随時拡充していく予定でございますので、最初の段階では、やや控え目の内容となっております。

また、「美園をつくるプロジェクト」といたしまして、美園タウンマネジメント協会にて検討・実施をしているサービスも掲載をしております。「美園地区では、こんなに先進的なサービスが提供されている」、「いつも新しい何かがある」というように、美園地区に住む面からも、訪れる面からも魅力のある「まち」にしていくことで定住人口、また交流人口の増につなげていきたいと考えております。

次に、3番目の内容でございますが、「まちのお医者さん」でございます。

子供の体調が急に悪くなった場合などに今すぐ診てもらえる医療機関の情報が掲載されたサイトなどをまとめており、働くお母さんにとって非常に役立つ機能となっております。

また、さいたま市では子供を安心して生み育てられる環境づくりを推進するために、ゼロ歳から中学校卒業前までの医療費を助成いたしておりますけれども、市外の病院にかかった場合には一度立て替える必要がございます。このような場合の対処方法など、市民の方から問い合わせの多い事項については別途わかりやすく掲載しております。今後アプリ利用者の声を踏まえまして、Q&Aを充実させていきたいと考えております。

最後に、4つ目は「みまもり防災」でございます。

子供を持つ親にとりまして、防犯情報、また防災情報は欠かすことができない情報だと考えております。

防犯情報といたしましては「県警のメールマガジン」、防災情報としては「埼玉県防災情報メール」のリンク先を掲載しておりまして、これに登録することで簡単に情報を手に入れることができます。

さらに、防災情報につきましては、先日の記者会見で説明をさせていただきました「Yahoo!防災速報アプリ」のダウンロードサイトを掲載しております。多くの方々に本アプリとあわせまして、これらのソフトをダウンロードしていただきまして、プッシュ型の通知によって緊急情報を確実に手に入れることができる環境を整えていただきたいと思います。

最後に、今後の方向性についてでございます。美園地区では、既に総合生活支援サービスといたしまして、環境にも優しい「マルチモビリティシェアリング」であるとか、あるいは浦和美園駅に設置しております「宅配ロッカー」などのサービスが提供されております。また、今後、子供の見守りなどの子育て世帯向けのサービスの提供も予定をしております。

これらの様々なサービスを本アプリからワンストップで利用できるようにすることで、「安心・安全」、「快適・便利」、「楽しく・豊かな」生活が送れる「まち」を実現していきたいと考えております。

本アプリを入れておきますと、「子育てが少し楽に、しかも楽しくできる」、このような状態を目指していきたいと考えております。そして、「選ばれる都市」に向けまして、将来的にはこれらを美園地区だけではなくて、市内全域へと積極的に展開していきたいと考えております。

以上で議題の説明を終わらせていただきます。

議題 1 に関する質問

○ 毎日新聞

ありがとうございました。

発表の案件について、1つだけ幹事社からお伺いいたします。

冒頭お話された、「ますます元気教室」の件なんですけれども、65歳以上の全ての高齢者の方が対象だというお話でございますけれども、どれぐらいの方の参加を見込んでいらっしゃるのかということと、あと健康寿命を延ばそうというお話がありましたけれども、今現在どれぐらいの健康寿命だと何歳ぐらいまで延ばしたいかとか、そういう目標みたいなものがあれば教えていただけますか。

○ 事務局

この「ますます元気教室」につきましては、今回4,500人を定員として定めさせていただいております。それと、もう一つの(質問である)健康寿命につきましては、詳細はまだデータ等ございませんけれども、今年度から始まる事業ですので、来たるべき2025年、先ほど市長からお話がありましたように、それからまだ20年後が本市のピークになることもありますので、そのあたりを今回の教室を見据えて、第7期の「介護保険事業計画」もございまして、その中で議論をしていきたいと考えてございます。

○ 埼玉新聞

埼玉新聞と申します。

これ「いきいき百歳体操」だったかな、県内で33の市町村が行っているとおっしゃっていましたが、DVDの作成はさいたま市だけなんでしょうか。

○ 事務局 ただいまのご質問でございますけれども、(体操を実施している)市町村までは確認をしてございますが、そちらの各市町村がDVDを作成しているかどうかまでは、確認できておりません。

○ 埼玉新聞 では、このDVDは市がオリジナルにつくったということによろしいんですかね。

○ 市長 そうですね、はい。

○ 埼玉新聞 わかりました。ありがとうございます。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。

先ほどの「ますます元気教室」の、市内在住65歳以上の高齢者4,500人の参加を見込んでいるということなのですが、ちょっと基本的な質問で恐縮なんですけれども、今さいたま市の65歳以上の方はどれぐらいいらっしゃるって、介護が必要な方はどれぐらいいらっしゃるのか、ちょっと教えていただけますでしょうか。

○ 事務局 65歳以上の人口でございますが、今28万3,000人ぐらいだったと記憶しております(会見後提供：65歳以上人口289,218人(平成29年4月1日現在))。そのうち、介護の申請を受けている方につきましては、所管が違うものですから詳細な数字は控えてございません。後ほど必要があればご提供させていただければと思います。(会見後提供：65歳以上要介護(要支援)認定者数45,975人(平成29年4月1日現在))

○ 埼玉新聞 28万人のうちの4,500人が、今回この教室に参加するというのを見込んでいるということですか。

○ 事務局 そうでございます。

議題2に関する質問

○テレビ埼玉 テレビ埼玉と申します。

議題2つ目のアプリについてお伺いしたいんですけれども、2点ほどありまして、全国初のAIによるという形なんですけれども、この全国初というのは、AIを使ったアプリ、どういった点が全国初なのかというところ

ると、あとA Iにより情報を配信するということなんですけれども、このA Iをどのようにして活用して、こういった形で情報が配信されるのかということをお教えいただいてもよろしいでしょうか。

○ 事務局 今、お話しした地域情報、これを人にかわって人工知能、A Iが探してくるためのプログラムを組んでいるところが初ということになります。

また、実際の仕組みなのですけれども、この人工知能、A Iがキーワード、例えば「子育て」、「イベント」、こういった条件をキーワードに検索を実行して、最新の情報を収集・配信する。こういった自治体のアプリについては初となります。

○ 読売新聞 今のところに関連して、読売新聞です。

全国初というのは、こういった形で確認されていますでしょうか。ソフトバンクかどこか、もしくははしかるべき機関に問い合わせ確認されていると。

○ 事務局 機関には問い合わせしていません。今お話があったようにソフトバンクのほうからお話を受けて、自治体としては初のアプリになるということになります。

○ 読売新聞 では、ソフトバンクが扱っている、何か取引をしている自治体では初めてということですか。

○ 事務局 調べてお答えをさせていただきます。

○ 読売新聞 大学と地域が一緒になってやっていくところがあるかもしれないですね。

○ 事務局 ウェブサイトから収集してくるというのは伺っているのですが、A Iを使ったものとしては、自治体としては初だと伺っていますので、詳細を確認させていただいて、後ほどお答えをさせていただきます。(会見後回答：本アプリの設計をお願いした「ソフトバンク株式会社」と「さいたま市」でWEB上において、人工知能（A I）を活用したアプリの有無を確認しました。)

○ 朝日新聞 同じところなんですけれども、先程「超小型EV等のシェアリング」とか「オープン型宅配ロッカー」について、ワンストップで利用できるようにしていくということなんですけれども、具体的にはどのようにアプリと連動させるのかというのを教えていただけますでしょうか。

- 事務局 非接触型の自転車等のシェアリングを3月から試行的に実施をしているのですけれども、アプリのほうにダウンロードしたソフトを入れて、タッチアンドゴーというのですか、そういう形で利用ができるように、このアプリと連動させていきたいと。同じようにウェブロッカーについても、これは今後になるのですけれども、同じような形でスマートフォンのほうから、手続きができるように、ワンストップで利用できるようなものを検討しております。

- 朝日新聞 タッチすると解錠できる。
- 事務局 自転車はそうなっていますけれども。
- 朝日新聞 自転車は、もうそうなっているのですか。
- 事務局 はい。
- 読売新聞 あと、このアプリの開発費と、あと目標ダウンロード数というんでしょうか、利用者の数なんかは目標がございましたら教えていただけますでしょうか。

- 市長 開発費用については、一般社団法人美園タウンマネジメントが約900万円を負担して制作をしておりますけれども、これは全額市が負担しているわけではなくて、関係する企業にも応分の負担をしていただきまして、それでこれを開発させていただいているところでございます。
それから、「数について」でございますけれども、現状としては、具体的な数の設定はしていません。

- 事務局 今みそのウイングシティの人口が、29年1月現在ですけれども、7,500人いらっしゃいます。そのうち、いわゆる子育て世代と言われている20代から49歳代、これは国の国民生活白書による定義となりますが、そういった世代が4,100人。ですので、おおむね全体の55%が子育て世代と言われる方となっています。非常に高い割合を占めていますので、ダウンロードいただける方は非常に多いものと考えております。

- 埼玉新聞 関連してなんですけれども、「B a m b i (バンビ)」で配信されるのが、イベント情報ですとか、美園の暮らしですとか、まちのお医者さんの情報ということなんですけれども、これというのは情報の内容については、どこが配信することになるんでしょうか。それぞれの配信元の情報をそのままいただけるということなのですか。情報の、誰が真贋を担保していた

けるのか、そういうことなんですけれども。

- 市長 基本的には、それぞれのサイトからとってございまして、内容についてはそのサイトのものをそのまま改編することなく、サイトの管理者も明示をして表示をしています。

それで、既に各サイトの管理者のほうにも訪問をして、このアプリの趣旨を説明した上で、このイベント情報として表示をさせていただいているので、基本的にはそのイベントへの情報の管理、責任ということについては、それぞれのサイト管理者ということになるのだろうと考えてございます。

- 埼玉新聞 以前さいたま市が「ヌストゥデイ」というサイトを開設して、引っ張ってくる先に許可をとっていなかったということでトラブルがあったかと思うんですけれども、今回に関しては引っ張ってくる先のもとの情報のソースについて、各配信者の許可をとっているという、そういう認識でよろしいのでしょうか。

- 市長 はい。

- 読売新聞 読売新聞です。

例えばなんですけれども、まちのお医者さんのページ、ここは地域の医療機関を紹介するということなんですかね。多分通常インターネットの検索サイトなんかですと、まちのお医者さんを紹介しますという、そういう情報のページ結構あると思うんですけれども、正直どこが、いわゆるいいお医者さんなのかというのは、いまいちよくわからない。例えばこのアプリでは、そこに対して何かプラスアルファの情報などを追加するのでしょうか。それとも、基本的にはリンクを張って、それを紹介していくというような形なののでしょうか、そこら辺をちょっと教えてください。

- 事務局 現在のところ医療機関については、例えばさいたま市で行っている「医療ナビ」ですとか、そういったところの情報から引っ張ってきます。リンク先を表示するという状態になっています。今後、ダウンロード数に応じてまして利用者の意見を聞きながら、その辺のバージョンアップについては検討していきたいと考えております。

幹事社質問：

- ① 新教育長の選任について
- ② 新大宮上尾道路について

○ 毎日新聞

よろしいでしょうか。

それでは、幹事社としての代表質問をさせていただきます。質問はまとめてお尋ねします。

1 問目として、新教育長に副教育長の細田氏を選任する人事案が提案されました。さいたま市として、初の女性教育長になります。あと、制度も変わった後の新しい教育長となると思います。細田氏を選任された理由と、どのような役割を期待するのかお聞かせください。

2 番目は、3月に首都高速道路株式会社が新大宮上尾道路の正式な事業着工を発表されました。先日には、石井啓一国土交通大臣が建設予定地の視察など行いました。さいたま市がこの道路に寄せる期待と、まちづくりにどのように生かしていきたいかなどを聞かせてください。

○ 市長

それでは、幹事社質問に順次お答えしたいと思います。

まず、1点目の新教育長の選任についての質問からでございますけれども、6月14日に議会の同意をいただきました新教育長は、ご承知のとおりこれまでの教育委員会委員長と教育長が一体化されたもので、本市教育行政の第一義的な責任者となる方になります。

細田眞由美氏は、平成25年4月から本年の3月まで、市立大宮北高等学校の校長を務められましたけれども、その間ICT教育やアクティブ・ラーニング型授業へ積極的に取り組み、生徒が主体的、また意欲的に課題解決に取り組むための教育に力を注がれてきた方でもございます。

また、平成28年度には文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けまして、科学技術分野で日本をリードする人材を育成すべく、大学あるいは研究機関などと連携をし、そして理数系の生徒が小学校の自由研究サポートを行うなど、本市の理数教育の推進の中心的な役割を果たすために、様々な取り組みを積極的に大宮北高校で進めてきた方でもあります。

こうした細田氏の実績を高く評価をいたしまして、日本一の教育都市を目指す本市の教育の責任者として、ふさわしい人物であると判断をさせていただいたところでございます。

また、この大宮北高校の前には、教育委員会の事務局にもおりまして、

いわゆる市立高等学校改革、特色ある学校づくりということで、4つの市立高校をそれぞれ特色ある学校にしていこうという計画をつくり、またそれぞれ取り組んできたこと、そして成果を上げてこられたという実績もごございます。そうした中で、細田眞由美さんを選んだこと、ふさわしい人物であると考えて、判断をさせていただいたところがございます。

本市にとっても、初の女性の教育長ということになりますけれども、新教育長の重責を果たす上において、これまで同様ご自身の感性、またアイデアを存分に発揮していただきまして、大変情熱を持ってこの教育にも取り組んでいただいている方でもありますので、日本一の教育都市の実現のためにしっかりとご尽力をいただきたいと思っております。

それから次に、新大宮上尾道路についてのご質問にもお答えしたいと思います。

国道17号の自動車専用道路の部分でございます新大宮上尾道路につきましては、平成28年の4月に国の直轄事業として新規事業化されたものでございます。

有料道路事業につきましては、「国の施策、予算に対する要望」や、私が発起人となって設立をいたしました「新大宮上尾道路建設促進期成同盟会」の要望活動で国に対して要望してきたものでございます。

平成29年3月31日には国土交通大臣が首都高速道路株式会社に対しまして、有料道路事業の着手を許可されました。

有料道路事業の着手が実現したことは大変喜ばしく、早期完成に向けまして、事業の進捗がより一層図られることを期待しております。

また、新大宮上尾道路の今回事業化された区間を整備することで、主要な高速道路へのアクセス性が向上することになります。

また、これによりまして物流の効率化、また企業活動における生産性の向上のほか、観光客の誘致等の面でさいたま市のポテンシャルの向上が期待をされます。

また、さいたま新都心が持つ首都圏の災害時のバックアップ機能の強化についても重要な役割を果たすものであり、本市の発展にとっても必要不可欠な道路であると考えております。

さらに、国道17号バイパスの慢性的な渋滞が緩和され、周辺的生活道路等において通過交通が抑制され、安全性が高まることや、市内の移動についても時間の短縮が図られることとなります。

本路線の沿道や、またインター周辺などのエリアにつきましては、産業振興の取り組みと連携をしながら、各種都市計画制度の活用などを検討していきたい、いわゆるストック効果というものも期待をしていきたいと考えております。

今後も国に対して市として最大限の協力を行いながら、事業化区間の早期完成と圏央道までの早期の事業化を引き続き要望してまいります。

以上です。

○ 毎日新聞

ありがとうございました。

代表質問に関して質問がある社はお願いいたします。

もしもなければ、そのほかも含めてご質問ください。

よろしいでしょうか。

では、これで終わります。

ありがとうございました。

○ 進 行

それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催は7月6日木曜日13時半からを予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

午後2時10分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。